

聖書日課 『からし種』 2024.11.10-11.17

<p>11月 10日 (日)</p> <p>エゼキエル 33章</p>	<p>「わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しきみちから。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか」(11節)。主の裁きは、わたしたちを主の道に連れ帰るための願いに満ちている。イエス様もまた、十字架上で、わたしたちの赦しを祈ってくださっている。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>エゼキエル 34章</p>	<p>「わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う」(16節)。この言葉を受け取った時、自らを「肥えたもの強いもの」になっていないかと省みることはできるだろうか？ 主の公平を安んじて受け取れる、へりくだるものとなし給え。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>エゼキエル 35章</p>	<p>「お前は果てしない敵意を抱き、イスラエルの子らが災いに遭い、最後の刑罰を受けたとき、彼らを剣に渡したからである」(5節)。セイル山と呼ばれるエドムは、イスラエルとは兄弟の国。しかし、二人の兄弟のわだかまりは子孫たちの内に拡大していったのだろうか。わたしたちは、ねたみや怒りを心の内に養い続けているのかもしれない。主よ、清めてください。</p>
<p>13日 (水)</p> <p>エゼキエル 36章</p>	<p>「わたしがこれを行うのは、お前たちのためではないことを知れ、と主なる神は言われる。イスラエルの家よ、恥じるがよい。自分の歩みを恥ずかしく思え」(32節)。主はご自分の民の救いをいつも望んでおられる。しかし、その恵みに応えて民は主の道をしっかりと歩むことも常に望んでおられる。主に「恥じるがよい」と言われない日々を歩み通したい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.11.10-11.17

<p>14日 (木)</p> <p>エゼキエル 37章</p>	<p>「わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く」(26節)。主は、いつの時も主の民が主の道を歩み、世界が平和に満たされることを望んでおられる。今、この時も主はわたしたちの真ん中にいて、平和を願い続けておられる。</p>
<p>15日 (金)</p> <p>エゼキエル 38章</p>	<p>「お前はかつて廃墟であったが、今は人の住んでいる国、諸国民のもとから集められ、国の中心の山々に住み、家畜や財産を持っている民に対して手を上げ、戦利品を奪い、ほしいままに略奪しようとしている」(12節)。再び集められたイスラエルにゴグの大群が襲い掛かると主が語られる。「多くの日の後(8節)」とはいつのことなのだろう。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>エゼキエル 39章</p>	<p>「彼らは自分の土地に安らかに住み、脅かす者がいなくなる時、わたしに背いた恥とすべての不信の罪の責めを担う」(26節)。主は散らされた民を再び呼び集めると幾度もイスラエルの民に語られた。その上で、安らかに住むことができるようになった彼らは、神に背いた恥と罪の責めを担うと言われる。今、イスラエルの民はこの言葉をどう聞いているだろうか。</p>
<p>17日 (日)</p> <p>エゼキエル 40章</p>	<p>「人の子よ、自分の目で見、自分の耳で聞き、わたしがこれから示す、すべてのことを心に留めなさい」(4節)。エゼキエルは主の霊により新しい神殿の幻を示される。主の民の「再構築」は、彼らが霊的な神殿として建て直されることを意味したからである。荒涼とした世界にあって主が示されるビジョンを大切に聴き取っていく信仰をいただいきたい。</p>